

## 障害者福祉への理解を深める講座

12月7日、2月5日、3月4日、みのおサンプラザにて「みんなで考える障害者福祉啓発講座」を箕面市主催、箕面市障害者事業団運営で開催。計140名の参加がありました。

1回目は、「真の共生社会を創出しよう！」障害者差別解消法をふまえて「」をテーマに西宮市社会福祉協議会共生のまちづくり研究・研修所所長の北野誠一さんを迎えました。共生社会とは、障害のある人となない人が具体的に接し、関わる中で、全ての人の尊厳が守られている社会のことをいいます。講演では、思いや背景など実例をまじえ、障害者理解に必要な様々なことをわかりやすくお話いただきました。

印象的だったのは、北野さんが大学教員をされていた時、重度の脳性マヒのあるAさんをゼミに迎えたエピソードとして周りの学生と同じように成長があつたにもかかわらず、

先生がAさんには難しいのではと思った質問もしっかり理解され、自分の考えを伝えようとしていたことを知り、北野さんははっとされたそうです。

また、人生経験の中で、自身の良いところだけでなく、弱いところ、嫌なところも自覚し、認めているかどうか、障害がある方と、自分とオープンにするのと、そうした経験から社会一般の常識に疑問を持ち、自分なりの受け入れや許容の幅を広げることも大事であるとされました。

2回目は、知的障害をもつ人たちの情報発信基地「パンジーメディア」とはと題し、社会福祉法人創思苑理事長林淑美さん、パンジーメディアスタッフの山田浩さん、中山千秋さん、パンジーメディアチーフプロデューサー小川道幸さんを迎えました。当事者が制作から関わるインターネット放送を中心として情報を発信するのは同法人がめざしてきたこととして「自分で決める（自己決定）のための

当事者活動の支援。どんなに障害が重くても地域で暮らす支援」が根底にあります。

当日は、実際のスタジオ入所施設のこと、**※「ピープルファースト」**の活動のことなど当事者の視点からお話を伺いました。知的障害者が発信する日本で初めてのインターネット放送は、毎月1回新しい番組を放送されています。

3回目は、障害がある人が置かれている現状、諦めの人生から抜け出せ！をテーマにNPO法人自立生活センター・リアライズ会長三井孝夫さんと同理事長の辻田奈々子さんを迎え、泉州の地域で障害者と健常者の仲間たちが、自分たちの手でその想いを実現しようと活動してきた軌跡やライブヒストリーなどを熱く語られました。二人が一緒に登壇されるのは今回が初めてのこと。実はこの講座を企画する際に打ち合わせなく担当者二名がそれぞれ三井さんと辻田さんを推薦

し、ならば一人とも来てほしいとわがままな願いをして実現しました。

時間の都合でご紹介できなかつたのですが、同法人が泉大津市で行う街づくり活動の取り組みの名称を「泉大津TRY」といいいます。その中でお二人や仲間、地域の方が募金活動をされ、その募金で市内の店舗にスロープ設置の実施をされています。市民と一緒にその街を暮らしやすい街にしていくことは簡単ではないと思いますが、一つ一つ種をまき、実をつけ、次の世代につないでいく、そんな活動の大事さに改めて共感しました。活動の詳細は、SNSでも紹介されています。

<https://realizeblog.wixsite.com/myste-1>

今年度も障害者福祉に関心を持っていただけるような企画を考えていきます。ご期待ください。

最後にいただいたアンケートを紹介します。(掲載の都合上、一部加筆、修正しています)

## 1 回目

・10年ぶりに北野先生のお話を聴くことができました。やはり視点が斬新です。

・※ ロジャーズのカウンセリングにおける3原則、業務上の心構えとして共感しました。

・きめつけの危険性を感じ、自分にも言い聞かせたことだと思いました。

・大学で先生の講義を聴いていたときのことを思い出しました。面白い講演でした。支援を業としている者として、はっとするお話もありました。

・障害者支援はどうあるべきか？基本から学びを深めることができました。支援者側の※ バイアスにも気をつけたいです。

・障害のあるなしというくくりは、社会が作ったもので、人と人が関係している上で、ただ「私」という人と相手の人がいるのみであるということ。それゆえ、一人一人の人間のありように向き合うことが、ひいては社会的障壁を無くしていくことにつながると感じました。

・難しい支援には、みなで協力して対応していいこうと思いました。

・ひとりひとり違うということ。支援者との関係が深まるとNoと言えなくなってしまうということが印象に残りました。

・障害者を100人知っていても101人目も同じとは限らないかもしれない。

・「障害の人はこのようなんだ」という固定概念にとらわれないことが重要だと再認識できました。また、理解と共感の関係性の話が興味深かったです。相手の事を理解はできても共感できないことはこれからもたくさんあるんだろうなと感じました。



## 2回目

・ 地域で自分らしく暮らすことの情報発信されている取り組みを初めて知りました。思いを伝えていく活動や経験を重ねていくことで自らの権利に気づき、他の障害のある人々やない人々にもわかりやすく発信されていることに感心しました。とても素晴らしいです。

・ 小川さんの「みんなやりたいことがある、かなわなかった夢がある」という言葉が心に残りました。

・ やりたい！にチャレンジする気持ち、サポートする姿勢がとても素敵でした。

・ 障害を持つ方がつらい過去について伝えることは、とても勇気のあることだと思いました。これから社会が障害をもつ方に対して思いやりや優しさを持つて接することができるようになれば良いと改めて感じました。

・ 障害者が地域で暮らしていく事はいい事だと思います。社会で理解されない部分もあると思います「その人らしく生きる」

ことは、一番大事にされないといけない部分だと思えます。自分にできる事があれば協力したいです。

「パンジーメディア」はそれぞれの人がい思いの生き方をしている事に自分自身はどうかと考えるよい機会でした。一度きりの人生、どんな人も自分らしく生きていく事が大切で素敵な事だと思います。

・ 当事者目線でのメディア製作へのこだわりに感服しました。

・ 「自分の人生は自分で決める」支援者として、本人が決め実行する経験を大切にしていきたいと思えました。表現するってステキですね。それを伝えるというこも。

・ 当事者の方がこれまでの人生を語る映像が印象に残りました。差別や虐待があることも知りました。障害を持つ方がやりがいを持ち、自尊、心を持って過ごすことができる場は大切だと感じました。「ピープルファースト」など知らないワードもあり、日々学んで情報を更新する必要があると思えました。



## 3回目

・ 障害児の親でした。昨日、「月」という映画を観まして悶々としていたのですが、今日の話を伺って少し心が晴れました。

※4「自立生活センター」の存在を知る事ができてよかった。また、施設や支援学校の選択は、親が子の特性の受け入れに理解があり、子にとっても生活が少し楽になるのかなと思っていました。その選択が本人のためになるとは限らないことに気づかされました。障害者の人達が健常者と同じ選択や自由のある社会に近づけていくために、自分の価値観から変えていきたいです。

・ 色々考えさせられる内容でした。障害者本人の意志をどれだけ大切にでき



ているか、支援する側として学ぶものがありました。  
・「それぞれが人生の主人公である」ことを強く感じました。当事者や家族もハッピーになっていい!

・前回に続き「施設で暮らす」という事を改めて考えさせられた。難しいこともありますが、共に暮らし、共に生きるということが重要だと感じました。

・映像がとても良く、しっかり観たいと思いました。自立生活センターで重度の方が過ごしているという事(できている)を知らなかったのでびっくりしたこと、楽しそうな雰囲気を感じ、もっとポピュラーになればよいなあと思いました。

・一人一人に「生きる力」を持って頂くために、経験を奪わない(どうしても失敗しないよう先回りしてしまう)よう日々の支援に活かしたいと思います。

・友達に先天性骨形成不全の方がいます。横のつながりがなかなか持てないことにさみしさや不安を感じていると聞いていた

ので、今回お話いただいたことや相談できる場があることを伝えたいと思いました。

・お二人の生き方を伺い、支援員として子どもたちに何を目標にどう関わっていかか改めて考えていきたいという思いです。自立やどの人にも暮らしやすい社会とは、考えていきたいと思いました。

・子どもが知的障害者です。今も肩身の狭い思いをします。周りの目が気になるし、迷惑をかけないように気をつけています。障害者の孤立は仕方ないとまだどこかで意識しています。でも障害者ウェルカムの社会になつたらいいなと考えます。みなさんの生き生きと活動している様子をみて私も頑張ろうと思いました。

・介助員(支援者)としていつもそばにいるとは、とてもはつきりと言われてしまった、気をつけなさい!! と思いました。いつもは保護者の方からのお話が多いので、当事者ならではの

お声が聞けて勉強になりました。

・今までどんな研修、講習より聞きたかった事が今回聞けました。

・体験談を聞けてとても勉強になりました。知らず知らずに、障害に対する固定観念(マイナス)があり、それは違うのだと再認識できました。三井さんの「障害者として生まれなければ、こんなにも幸せな人生はなかっただろう」が印象に残りました。



※「創思苑HPより引用  
当事者が自分の事を自分で決める権利をもつためにアメリカではじまった運動。

※「アメリカの心理学者であるカール・ロジャーズが提唱した「傾聴」の3つ

の構成要素を表すもの。3

要素とは、「共感的理解」

「無条件の積極的関心」

「自己一致」です。

※3 先入観、偏見

※4 全国自立生活センター協議会HPより引用  
1970年代初頭にかりフォルニア州バークレーに自立生活運動の拠点として生まれた当事者(つまり障害者)主体のサービス機関のこと。現在、世界各国に同センターが設立されています。